

# 市長室：対話の記録

## 要旨

## 開催内容の公開

### 対話の内容

市長のあいさつ(はじまり)

内容

市長のあいさつ(終わり)

第15回目となる今回は、市内の末広中央、末広、末広東地区にお住まいの方をはじめとする市民の皆さんと懇談しました。

44の方が参加し、地域特有の課題や、市政やまちづくりに対する意見など、活発な意見交換が行なわれました。



日時	平成19年8月24日(金) 午後6時30分～8時
場所	旭川市末広地区センター 大ホール(旭川市末広2条4丁目)
出席者	・西川市長 ・市民(44人)

## 対話の内容

※参加者はアルファベット(A～K)で表しています。

同じアルファベットの表記は同一人であることを示しています。

### 市長あいさつ

皆さんこんばんは。日頃より末広地区の皆さまをはじめ、市民の皆さまには大変お世話になっており、この場をお借りして改めてお礼を申し上げさせていただきたいと思います。今日は3つの市民委員会の地域の皆さま方にお声をかけさせていただきました。末広地域のお話しですとか、また全市的な部分でいろいろ市政に対してご提言などをいただければと思っています。1時間30分という限られた時間ではありますが是非いろいろとご提言なりご意見をいただければと思っています。

4年くらい前に末広地区を回らせていただいたことがあり、約3,500人位の末広地区の方にはお会いさせていただいていると思います。今日もよく知っている方がたくさん見えてますが、大変お忙しいところありがとうございます。今日は是非1時間30分有意義に過ごさせていただければと思います。

末広地域は今、約3万人の方がお住まいになっており、住宅街もずっと東鷹栖の方に伸びてきておまして、市内でも住宅地域として非常に発展してきている地域ではないかなと思います。新道、国道12号線、環状線、国道40号線があったり、またそばには神社や今造っております春光台のパークゴルフ場、秋月橋の河川敷にパークゴルフ場があった

りですとか、また浄水場などいろいろな施設もありますし、学校もすぐそばにたくさんあるという地域かと思います。

今日で14回目の対話集会になります。昨年の11月に市長に就任させていただいて、まもなく9か月が経過いたしますが、その間、様々な団体の皆さん、また地域の皆さんとの対話でいろいろなご提言をいただいております。市民の方々との対話、そしてまた市の職員との対話などいろいろな人との対話から市政に対してのアイデアをいただき、それによって行政を何とか良い方向に持って行こう、改善していきたいという思いから始めさせていただきました。これまでいろいろなご要望などをいただいておりますが、すでにいくつか行政に反映させていただいているものもございます。また例えば道路や橋の整備という事に関しては、財政的な理由もありなかなかすぐには出来ない部分もありますが、いただいたご提言は是非市の中期、長期計画の中で実現に向けて



頑張っていきたいと思っております。これまでいただいたご提言などの中で実現できたものとしては、ごみの有料化に伴うその指定ごみ袋を障害者の皆さんの授産施設などで販売させてもらえないだろうかというご要望について、実現することができましたし、また市営住宅の1階部分を優先的に高齢者や障害者、車椅子を使っている方の優先入居、あくまでも市営住宅の基準をクリアされた方ですけども、その優先枠を市内に100戸程増やさせていただくことも障害者団体の皆さんとの対話の中で実現をさせていただきました。また、市内に4か所ある観光情報センターの連携の強化ですとか、旭川屋において市内の物産紹介、販売コーナーの設置という試みをさせていただいております。今、懸案事項として協議している事項もたくさんあるのですが、皆さんからのご意見は後ほど関係部局と協議をさせていただいて、整理をさせていただいております。旭川市にもいろいろな問題がございます。雇用や景気の問題、財政の問題、また、より市民の皆さんに安心、信頼される市役所の組織づくりなど多岐に渡るわけですが、今、ひとつひとつ取り組ませていただいております。少し明るい話題をご紹介させていただきたいと思っております。今、旭山動物園が非常に好調であり、観光という面では非常に多くの方にお越しいただいております。来年の4月からスカイマークエアラインズさんが旭川、羽田間を飛ばしたいということで先日ご要望に来られました。この話がうまく進めば、東京までもっともっと安い航空運賃で行けるようになるのではないかなと思いますし、今、東京行きの始発が10時発なんですよ、これについて何とか9時台の早い時間に飛行機を飛ばしてもらえよう会社の方で前向きに検討していただけるというお話をいただいております。最終的には年明けに国交省また他の航空会社との時間枠の獲得という事でやっていきますので、まだ確定はしていませんが何とか9時台に飛んでもらえれば良いなと思っております。また、これも動物園に関連してですが、「旭山動物園物語」という角川映画の撮影が間もなく始まります。来年、全国ロードショーをする予定ですが、動物園という媒体を通じて旭川の知名度を大きく上げることが出来るのではないかなということで、監督の津川雅彦さんも非常に張り切っていただいております。動物園は好調なのですが、何とか他の産業、他の業界にもこれをどうやって波及させていくことが出来るだろうかと思っておりますが、そのようなご提言などもいろいろな部分からいただけたらありがたいと思っております。

また、市役所の組織についてですが、今、機構改革を行っていこうと庁内で議論をさせていただいております。限られた人員でどれだけの市民サービスを最大限提供できるかという事で協議をさせていただいている最中で、一応来年の4月には新しい組織でスタートさせていただきたいと思っております。また、第3回定例会が間もなく始まりますが、補正予算を提出させていただきます。特に冬場の季節労働者の方に対してのいろいろな国の補助金制度が今年度から大幅に減額、または廃止になっておまして、旭川市内近郊、上川中部地域で約1万人の方がこれに該当するということで、冬期間の季節労働者

の方の雇用の創出ということも今回の補正の大事な部分だと思っております。冬場仕事がないということは本当に季節労働者の方にしてみたら、最悪の場合、生活保護になってしまったりですか、旭川市内でも約1万人ほどの生活保護受給者がおりますので、この生活保護の方を何とか今後少なくして、皆さんに活躍していただけるようなまちをつかっていくという事も大きな課題の一つだと思っております。

また、市長への手紙ということで6月号の広報誌の中に折り込ませていただき、全世帯の方にお配りさせていただきまして、7月、8月と多くの方からいろいろなご提言をいただいております。数百通寄せられておりますが、すべての手紙に目を通させていただいております。その中には非常に個人的な部分の話でなかなか対応しづらいような話もありますが、全市民的なご提言ですとか、またこれは早急にやらなきゃ危ない、危険だなと、そういった提言なんかもいただいております。行政の立場からも非常にありがたく感じております。このようにいろいろな手段、機会を通じて、対話集会のみならず、多くの方とお会いすることが身近な市役所ということと、風通しの良い、より民意にフィットした行政を展開できるのではないかなと思っておりますので、今後ともいろいろとお力添えをいただければと思います。

今日は本当にお忙しいところ、お集まりをいただきましてありがとうございます。簡単でございますが、近況報告もかねて、冒頭のごあいさつにさせていただきました。よろしくお願いたします。

#### **参加者A**

この地域の一番の課題と思っているのは、旭川新道、国道12号線の騒音対策です。これについてはもうすでに5年くらい市の方をお願いしております。旭川新道は市の管轄ではないということは分かっておりますが、我々としては市長をお願いするのが筋だと思っております。しかし、市の担当部局は道の方をお願いはしていると思うのですが、あまり熱意が伝わってこないという感じをしております。今年も何度か旭川開発建設部の担当者から説明を受けていますが、その時に市の方も来てそれを聞いているという姿が見えればその熱意が感じられるのですが、今だにそういう感じになっておりません。開発建設部の説明では騒音対策はいつの事になるか分からない状況ですが、早急に騒音対策をやっていただきたいと思っております。

#### **市長**

国道12号線の騒音の問題については、私もずっと話を聞いてきております。5年というとても長い間の地域の皆さんの要望だという認識は持っております。直接的には国道ですので管轄は旭川開発建設部にはなりますが、市としても当然これまでの要望は出してきたております。しかしながら、一向に進まないではないかというご意見だと理解しております。私も直接お話をお聞きしたので、これについて私も直接開発建設部、また道などに機会がある毎にお話をさせていただいて、1日でも早くご理解いただいて予算を付けていただくように頑張っていきたいと思っておりますし、また今後そういう協議の場の中で市の担当者の出席が必要だという事になれば、その時は是非前向きに出席していきたいと思っております。それが結局国や道に対しての市の意気込みとして伝わるのかもしれないので、今のご意見については真摯に受け止めさせていただきたいと思っております。

#### **参加者B**

今の件ですが、市長が直接開発建設部に行っていただけませんか。お願いします。

#### **市長**

はい。

#### **参加者C**

旭山動物園は旭川市の顔として有名になりました。地域が良くなるのは地域産業の活

性化だと思いますが、旭川の地域産業は残念ながら顔がありません。行政は地域産業をPRして地域の活性化対策に取り組むべきだと思います。

### 市長

地域産業の活性化は非常に大切な事だという認識は持っています。私どもも企画財政部や商工観光部などが中心になり鋭意知恵を絞って、旭川の産業づくりという事でこれまでも例えば商工会議所やいろいろな業界、団体の皆さま方との連携を密にさせていただきながら取り組まさせていただいておりますが、なかなかそれが結果として現れずに地域の雇用や景気が上向かないという事になっているのかなと思います。

この旭川というまちは何が得意なのかなということをよく考え、また、いろいろなお話をお聞きする中で、やはり一つは農業だと思っております。農家の皆さんがつくる農産物、これをどれだけ高い付加価値を付けてブランド化して旭川の外に売り出していかかということが大きな柱の一つだと思っております。また、市内にたくさんの食品加工業者がいらっしゃいます。今、中国の偽装問題などで日本でも食品の安全安心という意識が高まってきている中で、安心安全な旭川の農産物などを原材料に使った食品をどうやってPRしていくかということが大きな課題の一つだと思っており、食品加工の技術を何とか向上して地域の皆さんや農家の皆さんとの連携と、またその研究に対して市として応援は出来ないであろうかと考えておりますし、その販路をどのようにしていくかということについて、今、調査をしております。

もう1点は、旭川は家具、木工のまちということで非常に有名であり、その技術というのは日本、世界でも最高レベルになります。ただ、業者の数はかつての3分の1に減っております。昔は結婚すると花嫁たんすなど家具一式揃えましたが、今はほとんど揃える人が居なくなり、また家やアパートも家具が全部建て付けになっていまして非常に少なくなるなど、家具全体の需要が大きく変わったということが一つの大きな原因だと思っております。このような中で旭川の家具業者の皆さんは特殊性、オリジナル性の高い家具ということでもかなり全国に出荷して頑張っていたいただいております。家具もそうですが、機械技術、機械加工、精密部品や鉄鋼業など、そういった技術というのは旭川は高い技術があると思っております。また工業高校や高専を出た人たち、こういった若い優秀な技術者を輩出しているまちですが、その受け皿がまだまだ足りないという事で、残念ながら若い優秀な人たちが市外に流出してしまっているということに対してやはり何とかして歯止めをつけていきたいと思っております。是非これから地域の産業の育成ですとか、企業誘致とかそういった事を含めて取り組んで行かなければならないと思っております。

もう一つはやはり旭川には病院がたくさんあるということです。医大もあります。今、医者がいないということで、地方のまちでは医者や看護士をどうやって自分たちのまちの病院に連れてこようかと大変苦労している中、本当に旭川は医者に苦労しないでこれだけの医療機関、福祉機関を持っているというのは、非常に今後のまちづくりの中で優位性を持つことが出来ると思っております。そういう医療関係の産業という部分も私たちの大きな得意分野としてこれからもさらに伸ばしていかなければいけないのかなと思っております。

また、観光関係では、動物園の人気の、お菓子屋さんとかお土産屋さんは非常に儲かっていますが、それ以外の業種にどうやって動物園人気を波及させていくかという事が一つあるかなと思っております。その他にもまだまだあるかとは思いますが、今、私の中で重点的に考えているのはそういった部分です。

### 参加者C

これからの行政マンの仕事はまちや一般市民の中に降りてきて、中小企業の実態を知るべきだと思います。ただ、データだけ取るとかそれで検討しているとかデスクワークの行政マンではなく、一般労働者、事業主と対話して実態を把握することがこれからの行政だと思っております。

また、市長にはもっと旭川を全国PRしてほしいです。旭川に優秀な企業はたくさんあります。農産物にしても家具製品にしても良いものはたくさんありますが、それを全国

に、また全世界にPRしてほしいと思います。今の行政マンは営業マンなのです。私の考えはどうでしょうか。

#### 市長

デスクワークでの大事な仕事もちろんありますので、それはやらなければならないのですが、それプラス、やはり地域の皆さんとの対話による地域の実情の把握は市の職員の大きな役割と思っています。今後どういう方法がいいのか是非検討させていただきたいと思います。

私自らが旭川の一番の営業マンというつもりで、これからも東京や大阪などで、これまでもいろいろ宣伝させていただいたり、企業誘致のお願いをしたりなどさせていただいております。今後更にそういった事を視野に入れながら私も頑張っていきたいと思っています。

#### 参加者D

末広市民委員会で市に対する要望事項があり、それぞれご回答いただいておりますが、その回答内容が、来年度以降検討に入りますということでは地域に帰って報告できません。要望時の面談には市民委員会側はそれぞれの町内会長が出席しておりますが、市側は課長クラスが出席し、ご回答いただいたのですが、もう少し役職が上の方が出席してくれても良いのではないのかなと思います。

除雪についてですが、交差点の見通しが悪いという事と、それから寄せた雪を排雪しないものですから2車線が確保されず1車線で蛇行するような形でやっと通っているという状況です。事業所の方はすぐ見に来てくれますが、排雪されるまで時間がかかります。北海道ですから除雪は生活にすぐ影響が出ます。特に通学路の除雪には十分力を入れていただきたいと思っています。

#### 市長

地域の町内会、市民委員会の皆さま方からの要望に対しまして、もう少し誠意を持って対応していただきたいというようなお話と理解しましたが、私どもももう1度、地域の皆さんからの要望に対して、どういう障害があってすぐ出来ないのかという事ですか、例えばやるとすればこういう時期にですとか、お金が無いというのも理由の一つなのかもしれませんが、もう少しその辺を地域の皆さんに理解していただけるような形で対応させていただくことが必要ではないのかという事で、今後私もそういう話を、各担当部長にさせていただきますと思います。

#### 参加者A

今の意見は、要望に対して、市はその時だけやり過ごせば何とかかなというように、そういう印象を受けている人がたくさんいるということなのです。具体的には、この地域に東鷹栖公民館の第1分館があるのですが、非常に老朽化していますので何とか建て替えて欲しいと要望した時に、お金がないので改修するということになり、改修する時にはここを一番先にやりますと言われた事があります。ところがその後他の公民館はきちんと改修されているのにこの分館は後回しになっているという経緯がありますので、地域では、あまり市は信用ならないよという感じになっています。

そして面談に出てくる職員は、それなりの専門家が出てきているのですが、部長など役職が上の職員が来て、我々の要望をしっかりと受け止めてもらいたいということなのです。

#### 市長

国道については市ではありませんが、例えば幹線道路や生活道路にそれぞれ雪が何センチ降ったら除雪車が入り、年に2回排雪するとか、1回排雪するなど、そういう除排雪の基準をつくりやっているのですが、必ずしも十分な除雪、排雪がされていないというの

は私も旭川に住んでいて感じています。予算の問題もあるのですが、どうしても危険で排雪をしていかなければならない場所も出てくると思いますので、今後も地域で言っていたいて、こういったことに対して是非迅速に要望に少しでも多く沿えるようにというような心構えは持ちたいと思います。当然事業所もそういうことでやってきてはいますが、この除雪についても予算の問題という一番の壁に当たってしまうのかなと思います、努力はしていかなければならないという認識は持っております。

#### **生活交流部長**

除雪の件ですが、毎年平均しますと約10億円くらい除雪費としてかかっております。皆さんからの意見としては、玄関前に置かないでほしい、いつも交差点に雪が積まれており見にくいということが一番多いのですが、限られた予算の中で地区住民、市、除雪業者の連携を密にして、例えばここは子ども達がよく通るから危ないから優先的にやるべきだとか、ここは若干遅れても構わないなどといった地域からの話をいろいろな形の中で詰めていくというやり方が今後必要だと思っています。そういう意味で事業所と除雪センター、それから地域の皆さんと一緒に、限られた予算の中で対応していく必要があると思っていますので、またご協力をお願いできればと思っています。

#### **参加者E**

先ほど市長から、地域産業を全国的にPRしていきたいというお話がありました。先日、東川町、美瑛町、旭川市が東京の八重洲地下街で地場産品などのPRをしていますね。これには職員が派遣されているのでしょうか。昨年行って来ましたが、動物園のパンフレットのみが置かれてあって、地下街を歩く人が全く関心を持っていませんでした。一番積極的にPRしているのは東川町でした。市の職員がいなかったようでしたが、あれでは効果がないなと思いました。全国的に売り出すというのであれば、もう少し力を入れた方がよいと思います。

#### **市長**

私もそこで地場産品などのPRをしていることは知っています。先日、東京へ行った時に東京東川会の副会長をしている方で赤坂でお店を経営している人がいるのですが、その方に旭川の人たちはもう少し八重洲地下街を活用した方がいいのではないかと、東川の町長は積極的に活用しているよ言われました。市の職員が行っているかどうかについては確認してみないと分かりませんが、来年度以降、職員が行くことによってPRが高まるということであれば、また検討させていただきたいと思います。

#### **参加者E**

私の親戚が東京で東川町の観光関係の役員をしており、そういうつながりがあって東川町はかなり宣伝効果が上がっているそうです。やはりもっとたくさん地場産品をその会場に持って行って紹介しなければ関心を引くことはできないのではないのでしょうか。

#### **市長**

先日、東京で聞いた時には、旭川市は以前はたくさん出していたが、年々が減ってきているという話を聞きました。過去にどういう経過があったのかということも含めて確認して、来年度以降につなげて行きたいと思っています。

#### **参加者F**

市民委員会への補助金について市長の考え方を伺います。ご存じのように市民委員会は市からの補助金と各町内からの分担金で運営していますが、平成16年度から補助金の運用について非常に厳しくなりました。具体的に言いますと、交際費、慶弔費、飲食費、懇親会費は全て補助金の対象外であるという文書をいただきました。その後、市の担当部署に意見を述べましたが全くその後も変わっておりません。例えば慶弔費です。市民

委員会の役員が不幸にして亡くなったとしても市民委員会として弔意も表せられないのでしょうか。それから飲食費、懇親会費ですが、お祭りなどの行事の後には反省会をして多少の飲食は当然伴うものです。それを補助金の対象外というのはいかがなものでしょうか。平成15年度まではそういうことはありませんでした。これについて今後検討する余地があるのかどうか伺いたいと思います。まちづくりの基本はやはり町内会や市民委員会であると私は思います。

### 市長

平成16年の時に、まだ私市長になる前でしたけど、いろいろな地域の市民委員会の会長さんからその話を私、直接聞いておりました。で、市民委員会の会長さんから、何でという話で良く聞いていました。私は当時、まだ市の外にいましたけど、なるほどな、そういう考えもまあ、あるんだろうなと、まあ多分、市の財政が非常に厳しい中で、切り詰めていく中の一つの方法としてやっているのかなと、当時議会で非常に、これをやめなければだめだと言っていた議員さんがたくさんいたと言う話も当時聞いておりました。このあたりはまあ今後一回やめてしまったものをまた復活するということになると大義名分をどうやって作っていくかというのがありますし、またもう1点はその判断したときの基準が市民委員会の皆さんにはもちろん地域の部で大変お世話になっておりますし、町内会の皆さまにももちろんお世話になっておりますし、私ども行政としても大変ありがたいと思ってますけども、まあ、例えば他の団体、任意団体の皆さんに対してはそういうお金は市では支出してないのに何故市民委員会だけその飲食代に市のお金、税金を使わなければならないんだ、そういう議論も、当時あったんじゃないかなと、まあ私の予想ですけどね、まあそんなこともあります。そういった過去のことは過去としてあるんですけど、今、なかなかこの場所ですぐこれを復活します、というの私も言えないのかなと思いますが、そういうご意見がまだ市民委員会の中の皆さんにあるという事は私も認識をもう1回させていただきたいと思います。で、まあ今後どういう方法が良いのか、まあ、これはすぐ来年、再来年に復活できるという部分はまあ、申し訳ないですけど可能性としては厳しいのかなという認識を私はもっているんですけども、まあ、市の財政が今後少し余裕が出てきた段階ではまた是非その辺も前向きに考えさせていただきたいなと思います。

### 生活交流課長

今、市長の回答に補足で説明させていただきますが、平成16年の経過と今後の見通しにつきまして、私ども生活交流課の方で担当しておりますので答えさせていただきます。

実は平成16年に旭川市の財政状況が非常に厳しいということで、いろいろな事の見直しが行われました。行財政改革ということで、お金、人、組織の見直しを行ったのですが、その中で補助金の交付基準についても全庁的に見直され、今言われたとおり補助の対象として認められるものと認められないものというのが示されました。簡単に申しますと慶弔費、交際費、飲食費については補助金の対象とはしないということになりました。これは市民委員会の補助金だけではなく、いろいろな補助金について、いわゆる飲食代は補助金の対象にないということになりました。ではなぜ今でもそれが理解されていないのかというと、平成16年当時に地域への説明をしっかりとしないうち、性急にそれを取り入れ、制度を変えていったということが原因です。もっと丁寧に何回も地域に説明をしていれば理解されたと思いますが、皆さんが一番誤解されているのは、飲食代や慶弔費についてです。決してこれらを使っちゃいけないと言っているのではないのです。大体平均しますと、市民委員会の歳入の内に占める市からの補助金は28%~29%であり、全体の運営費の内のわずか3分の1で、残りの3分の2は皆さま方のそれぞれの会費ですとか、事業で得た収入などを当てているわけです。ですから3分の2の部分について、私どもは決してあれやこれを使っちゃいけないということを言っているのではなく、市からの補助金の部分については、決算時に飲食代、慶弔費を除外して下さいというお願いをしています。ですから決して飲食代や慶弔費などの支出はだめだと言っているわけではなく、市の補助として使っていただけるのは、いわゆる事業として活動した通信運搬費とかコピー

代などで、そういったものを補助金の対象としていますということです。

説明を極めて性急に行った結果、今でも地域の方に誤解を招いているところがあり、私もいろいろな場所に行って説明させていただいて、やっと理解していただいております。平成16年の事とはいえ、これからも十分に気をつけて対応していかなければ誤解を招いてしまうということで、反省させていただきたいと思っております。

#### 参加者F

私は、補助金を増やしてくれだとかという考えは全くありません。町内で負担した部分で支払えばよいというのは十分承知しております。しかし補助金の対象外とするのが本当に適当なのでしょうか。行事があったらその後に反省会等で多少の飲食をするのは普通だと思います。それを補助金の対象外とするのはいかがなものでしょうか。

#### 市長

市の財政状況に余裕があれば、その辺はもう少しゆるい基準だったのかもしれませんが、市の財政が厳しい状況の中でいろいろ考えて精査してきたと理解しています。私の個人的な考えで補助金で使っていいですよと言いたいという思いもありますが、こういうご時世なので何とか理解していただきたいと思っております。

#### 参加者A

この補助金というのは基本的にはいろいろな事業に対して補助をしているということだと思います。市民委員会の事業というのは、大事業をやるわけではなく、やはり地域のチームワークというか、輪というかそういうをつくることを当面の目標にしているわけですから、会合などでは当然飲食はつきものなのです。真面目にやっている訳ですから、その事業にふさわしいように使ってもよいという考え方に立っていただきたいと思っております。今、生活交流課の方がそのうち分かるだろうと言いましたが、これは分かりませんよ。そういうことだけ申し上げておきます。

#### 参加者G

補助金というのはどういう性格のものかということをもう一度考え直して欲しいと思っております。先日、市民委員会の会合で、当初は市民委員会は広報誌などの市からの文書を配るために出来たはずなのに、最近は市からの依頼内容が複雑になってきたと言っていた方がいました。市民委員会への補助金の本質は広報誌の配布の手数料なのです。1戸あたり200円という程度のお金は郵便代にもなっていません。市はそれを助成金だとか補助金だとか言ってやたらうるさく報告させております。なおかつ私たちの会費やバザーでの売上金での飲み食いについてケチをつけられてしまっは市民委員会をやらせられないという感じになってきます。どうして補助金なのでしょう。郵便手数料として出せばよいのではないですか。市民委員会で地域のコミュニティ的な活動をしようという市の基本方針は分かっていますが、その為の補助金であればもっともお金が必要になるはず。単純に広報誌などの文書の配布を手数料程度のお金でもって助成金だ補助金だと言ってもらっては困ります。

それから今、私の町内会では広報誌の配布をしておりません。今、業者が配布しているようですが、以前は町内会が無料で全戸配布していました。それが業者配布になったということは無料ではないはず。市民委員会を通しての配布の依頼なので、配布できないという町内会があったら、その地区については業者が配布するようになっております。少し前までは市民委員会からの依頼を受けて町内会が無料で配布していたんです。今は市は余計な費用をかけているのではないかなという気がします。

#### 生活交流課長

補助金の性格という事ですが、広報誌の配布の為のお金だと理解されているようですが、本日お集まりいただいている皆さんに是非何とかご理解していただきたいことは、ま



ず、約4千万円弱の補助金を64の市民委員会に交付させていただいており、確かに1市民委員会当たりになると少額かもしれないですが、その性格というのは基本的には市民委員会さんにはどうぞ自主的にいろいろな活動をして下さいということです。その為の手助けとなる部分で使って下さいということですから、決してその広報誌の配布のためのということではなく、地域の市民活動に広く使っていただき、その中で飲食についてはだめだとは決して言うておりません。町内会の運営を円滑にするためにお酒を飲んでいただくのも結構です。ただ補助金の対象としては、お茶菓子程度を補助の対象とさせていただき、その後盛り上がってお酒を飲んだ部分については、申し訳ないですが町内会のお金としていただきたいということです。

#### 参加者G

会合の席で町内会のお金で飲み食いしたということであれば問題ないのですよね。

#### 生活交流課長

問題ありません。

#### 生活交流部長

広報誌の配布についてですが、町内会に入っていない方には、町内会ではなかなか配ることができないなどというお話もあり、市では直接その方に郵送していたことがありました。市としてはやはり情報を市民の皆さんに提供する立場でありますので、全戸配布をしようという姿勢を取っており、市民委員会の方で配布できるという部分につきましては市民委員会にお願いして、手数料的なものを支払っているのですが、市民委員会での配布が難しいというところについては、業者をお願いして配布しているという方法をとっております。

#### 参加者G

今までやって来たことがなぜ出来ないのでしょうか。

#### 生活交流部長

本当はお金のかからない配布方法が一番良いとは思いますが、従前の配布方法ですと、この地区は全部配られているけれども、この地区は一部配られていないという、地区地区でのばらつきがあるという問題がありましたので、今の配布方法は若干費用的な問題はあるのかもしれませんが、やはり全戸に広報誌を配布させていただくためにこの配布方法をとっておりますので、ご理解いただきたいと思えます。

#### 参加者G

私たちの町内会が配布を拒否した理由は、配ることについての報告書が多すぎるからです。報告書を何枚も書くのは大変です。それを町内会の班長さんに押しつけることはとても出来ないで、断ったのですが、報告書の作成が不要であれば全戸配布に協力する町内会も多いと思えます。

#### 生活交流部長

地域の皆さんが広報誌を配ることで、地域住民の交流が深まり、それにより町内会へ加入したいという方も出てくるかもしれませんし、地域とのつながりも出てくると思えます。そういった意味では、今の配布方法よりも、他にもっと良い方法について検討していく必要もあると思っております。

#### 参加者G

町内会と直接契約はできないのですか。市民委員会を通さないとだめなのではないですか。

### 生活交流部次長

広報誌についてですが、実は旭川市内の約1万6千世帯の中で広報誌が配布されていない世帯があるということがあり、以前からの課題となっております。私もやはり広報誌というのは行政情報の基本ですので、町内会に入っている入っていないに関わらず、是非皆さんにお配りしたいということで、いろいろな方法を考えながらやってきた中で、今お話しにありましたとおり、町内会単位で契約出来ないだろうかといったことを検討したこともありました。ただ、ご存じのとおり1,200位の町内会があり、これを効率的に配布するとなると非常に困難な状況となりますので、64の地区市民委員会単位で町内会加入の有無に関わらず配布していただけるということであれば、基本的には市民委員会にお願いしたいということで、市民委員会の連絡協議会の方にも意向をお伺いしながらやってきておりますが、先ほどのお話しにありましたように、報告書などのいろいろな事務的な問題なども極力煩雑にならない程度にしてお願するなどということも今後とも引き続き検討してまいりたいと思っておりますので、ご理解願います。

### 参加者A

今、民生委員の推薦作業をしているのですが、予算がほとんどありません。推薦のための会議をこれまでに2回この地区センターで開催していますが、2回分のお金はありませんので自己負担しております。この末広地区市民委員会からは8人の方を新しく推薦させていただいておりますが、推薦作業に伴う電話代やコピー代は経費として一切認めてもらっておりません。予算もなしに各推薦委員に協力をお願いするのは、おかしいのではないのでしょうか。

### 参加者H

民生委員の推薦について関連で質問をしたいのですが、新任する時には町内会に推薦の依頼がきますが、再任する時には町内会に何の連絡もなしに再任するという状況になっています。再任する場合には町内会の意向は全く反映されないのでしょうか。

### 市長

民生委員については、市が推薦した方について厚生労働大臣が委嘱するということになっていると思いますが、その辺についての細かい法律などはあるのでしょうか。

### 生活交流部次長

大変申し訳ないのですが、それについては保健福祉部の方で担当しており、かなり専門的な部分がありますので、この場で適当なお話しはできませんので、今いただきましたお話しは持ち帰りまして、回答をまとめてからお話しするようにさせていただきますと思います。よろしく願いいたします。

### 参加者I

先ほどから予算がないというお話しですが、振興公社と土地公社で何十億円という赤字を抱えていますね。その赤字を負担するのは市であるということらしいですが、それについての対策は何かしているのでしょうか。何もしていないのであればいつまでも赤字が続きますよ。最後は市が負担することになっているのならいつまでも黒字になることはないですよ。そういうのを野放ししておいて、金が無いという話は通用しないと思います。

パークゴルフ場の芝の管理ですが、パークゴルフ場ができた当初は全面的に肥料をまいていたのが、年々肥料をまく回数が減ってきて、今年はやっとフェアウェイだけまいてくれました。それは肥料代を節約しているのでしょうか。利用者からは100円でもよいから利用料を徴収して、管理する経費に使ってほしいという意見がすごくあります。パークゴルフ場をただつくれるばよいと思っているのか、それをきちっと管理して皆さん楽しく遊んでもらおうと思っているのかわかりません。

### 市長

土地公社、振興公社の損失について、今、数字は持っていないのですが、土地については、今、旭川市の地価がどんどん下がってきています。地価が高い時に買ったものが今半分くらいになっていたらその分の損失は出ているという、旭川に限らず全国的にそういう問題が起きていると思います。高い時に土地を売ってしまえば損失はなかったでしょうけれども、なかなか買ってくれる人がおらず焦げついているというのが原因として考えられると思いますが、今後、これ以上土地が下がらないことを願わなければいけないですし、1日も早く、なるべく高い値段で売却するということを振興公社と土地開発公社に、第三セクターですので、市もしっかりとその事は言っていかなければならないのかなと思います。

### 生活交流部長

旭川振興公社と旭川市土地開発公社は第三セクターですが、土地開発公社については、公共用地の先行取得ということで駅周辺の土地などを持っており、基本的に市はその債務保証をしております。一般的に言うと銀行からお金を借りるときに市が保証人になっているということです。それも隠れている市の借金ではないかという言われ方をしますし、それから今のように地価が下がって来ますと、実質は買った土地と財務諸表上ではバランスは取れているのですが、実際には売れなかった場合、その赤字は最終的にはどうしていくのかという問題が内在しているということです。

振興公社については、産業廃棄物の処理だとか動物園内の施設つくるなどいろいろな事業を展開しております。こちらの方は事業に伴うお金を借りるとき、損失補償と言っていますが、議会の同意を得て銀行からお金を借りる時に市が保証人になっているという形になっております。振興公社の方は産業廃棄物の処理など一定程度事業を展開しておりますが、じゃあずっと安穏としていいのかというところというわけではないと思いますので、市としてもやはり第三セクターの運営、赤字解消に向けての指導というのを当然これからもしていくという立場になっておりますのでご理解をいただければと思います。

### 市長

その他にも市が直接持っている土地で空き地になっているところもありますので、早く活用して売却していくということが一番だなと思います。

パークゴルフ場の件ですが、市内に無料のパークゴルフ場があり、これが非常に管理が悪いというお話しや、100円くらい徴収してもう少し整備してもらえないだろうかというお話しもいろいろなところからお聞きしております。当初、パークゴルフ場をつくったときの経緯が、お金がかからないで誰でも気軽に遊べると、その代わりあまり高いレベルのものは作れませんよというような経緯でスタートしたのではないのかなと思います。今、公園緑地協会に全面委託をして管理をお願いしております。市から委託料を緑地協会に払っていますが、以前は肥料をまいていたが、今年はまいていなかったというのは調べてみると分からないので、今後どういう管理をしているか私の方でも調べてみます。もし市民の皆さんがお金を払ってもよいので、管理を徹底してもらえないでしょうかということであれば、それは私どもも真剣に考えなければいけないと思います。しっかり管理するとすれば多分100円では全然足りないような気もしますし、お金をいただいたからにはそれなりの高いレベルの管理を逆に要求されるのではないかなと思いますので、そうなると400円、500円位いただかなければ、東神楽などの立派なパークゴルフ場は出来ないのかもしれないかもしれませんが、逆に無料のままの方がいいという利用者もいるでしょうし、例えばパークゴルフ協会から要望していただいたりして、是非パークゴルフの愛好家の皆さんで意見を統一していただけたらありがたいなと思いますので、よろしくお願いします。

### 参加者K

パークゴルフ場の件ですが、鷹栖に丸山パークゴルフ場があります。土日は500~800人の利用者があり、順番待ちの列ができます。旭川市では嵐山のパークゴルフ場がで

きましたが、利用料金が高く、最近ほとんど利用者がいないということです。旭川のパークゴルフ人口は10万人と言われていますが、マナーの悪い人が多いらしいですね。ごみを捨てたり、順番を守らなかったりする人が多いそうです。

議員の定数についてですが、36名中、5名削減したら年間7千万円くらいは節減できます。

また旭川の負債は大体どのくらいあるのか、今日の参加者に教えてもらいたいと思います。第2の夕張にならないように、またできるだけ市民に負担をかけないような行政をしていただきたいと思います。

#### 市長

嵐山のパークゴルフ場はあまり評判良くないですね。コースが狭いなどそういう話は良く聞きます。設計した当時はこれが一番良いということだったのかと思いますが、何か良い方法はありますか。

#### 参加者K

パークゴルフというのはボールを転がすものです。最近の人たちはボールを投げるものですから、昨年嵐山で事故が起きているのです。老若男女が遊べるスポーツなので、ボールは投げないで転がすようにしてもらいたいです。それを守れば狭いコースでもプレイ出来るのです。つまり旭川市民のマナーが悪いということなのです。市がつくったパークゴルフ場が悪いというわけではありません。

#### 市長

コースが狭くて危ないという話を何度か聞いたことがあるので、それは利用者にも気を付けていただいて、怪我の無いように使っていただきたいと思いますが、今後、コースなども将来的にもっと魅力のあるコースという事も考えていかなければならないのかなと思います。

議員定数の削減については、議長とお会いした時にその旨を話させていただこうかなと思います。議会という私たち市長部局と独立した組織なものですから、やはり議会、議員の皆さんが定数について議論をして考えていただくということが本来の筋でありますので、その辺を踏まえながら話させていただきたいと思います。

旭川市の借金ですが、大体約3,000億円くらいという現状にあります。大変な額だと思いますが、市の一般会計が約1,500億円でありますので、その額と比べると倍ですが、国からの地方交付税などいろいろいただいている歳入を除いた、市税のみで考えると400億円ですので、それに対しての比較も出来るのかもしれませんが。ただ夕張に関しては、借金の桁が私たちと一桁違うくらいの、隠れ借金をしていたんですね。法律上認められない会計方式をして、借金があるけども無いように見せかけて借金を積み重ねてきたので、ああいうことになったのですが、私は旭川に関しては100%夕張のように再建団体となることはありませんと、また無いように財政運営をしまいと、この場をお借りして皆さんにお話しさせていただきたいと思います。

#### 参加者C

赤字解消の具体的な解決策というのは。

#### 市長

予算編成の時に、新しく借金をするのは1年間に130億円以内と決めております。そして返していくお金が180億円、190億円と返していっておりますので毎年何十億程度は減っていきます。例えば、1年で50億減らすことが出来れば10年で500億円、3,000億円といえは60年ですが、借金をゼロにする必要は無いんですよ。どこの会社も借金しながらそれで収支バランスをつくってやっていますので、それをゼロにするつもりは今のところは必要ないと思いますが、これが払えない額になってはいけないというのはもちろ

んでありますし、財政のバランスが取れるように借金を少しずつ減らしていくことで、私たちの子どもたちの世代にはもう少し使えるお金が増えていくのかなと思います。国の借金も大変な額で、先日高橋知事にお会いした時に国の財政状況が夕張と同じくらいだと言っていました。国の台所が火の車ですので、私ども地方も当然苦しいのですが、国の場合はお金を自分たちでつくることができますので、どんどん紙幣を増刷すれば借金は消すことができるのです。地方自治体はお金をつくることができないものですから、国よりももっと厳しい財政運営をしていかなければならないと思っていますので、肝に銘じてやっていきたいと思っています。

### 参加者C

1年間で借金を50億円減らしていくというお話しですが、その50億円を生み出す原資は何ですか。どこから出すんですか。

### 市長

例えば内部経費の切り詰めですとか、職員数や諸手当の削減ですとかもありますし、また先ほどお話しがあった市民委員会に対しての補助金や他の団体のいろいろな補助金も減ってきています。公共事業についても以前は300億円くらい出して、たくさん工事していたのですがそれが今は3分の1の120億円くらいに減っています。また景気が良くなって市の税収も増えてくるというのがありますし、これは本当に厳しいことなのですが、市税の収納率がまだ91%ですし、保育料の滞納の問題もあります。本当に地道な作業ですけどこれらを改善して、一つ一つ積み上げていけば億単位のお金になります。だから市税は400億として1%上げたら4億円、2%上げたら8億円の増収になります。どうしても払えない方もおりますので、そこから強制的に取るというのはできませんが、悪質な方、例えば払えるのに払わない方や全く相談に応じてくれずに逃げ隠れしているという人たちも実は結構おります。そういった方に対してはもう少し厳しい処置をしていくという事も必要だと思っております。

### 市長終わりのあいさつ

途中から時間があっという間に過ぎて、気が付いたら8時になっていて驚きましたが、本当にいろいろなご意見をいただき、ありがとうございます。なかなかいただいたお話しに添えないお話しもしたかもしれませんが、現状の中で何とかご理解いただきたいという気持ちでお話をさせていただいたつもりでございます。また、先ほど後日調べて連絡させていただく事につきましては必ずその様にさせていただきますと思いますし、またいろいろな機会でご提案、ご意見等があれば広聴広報課や秘書課でも結構ですので気軽にお話しいただければと思います。

今日は本当にお疲れのところいろいろと貴重なご意見をいただきありがとうございます。今後ともよろしくお願ひします。